

平成 24 シカ年度 ルサー相泊地区におけるエゾシカ密度操作実験案

1. エゾシカ個体群の現状

1-1. ヘリコプターセンサスの結果（環境省事業）

ルサ川河口からセセキまでの約 7 km の海岸線に沿った斜面および海岸段丘上（約 12.43 km²）で、越冬期に直接確認されたエゾシカの頭数は、2003 年 3 月の 90 頭（7.24 頭/km²）から、2011 年 2 月には 108 頭（8.69 頭/km²）へと微増。発見位置は海岸沿いの低標高地（海岸段丘上）に集中していた。

1-2. ライトセンサス・日中センサス等の結果（羅臼町事業・知床財団独自調査事業）

2008 年以降の春と秋に、各時期 5 日間集中で道路沿い 10.2 km 区間において実施したライトセンサスの確認数最大値は 278 頭（密度指標値：27.3 頭/km、2010 年 4 月 23 日）、このうちメス成獣の確認数は 187 頭（18.3 頭/km）であった。なお、2003 年 4 月 23 日に同区間で 1 回だけ実施したライトセンサスの結果は 240 頭（23.5 頭/km）、うちメス成獣は 154 頭（15.1 頭/km）であった。

一方、日中センサス（冬期間の午後に 8.0 km 区間で実施）の過去最大値は 369 頭（46.1 頭/km、2010 年 3 月 18 日）、うちメス成獣は 221 頭（27.6 頭/km）であった。

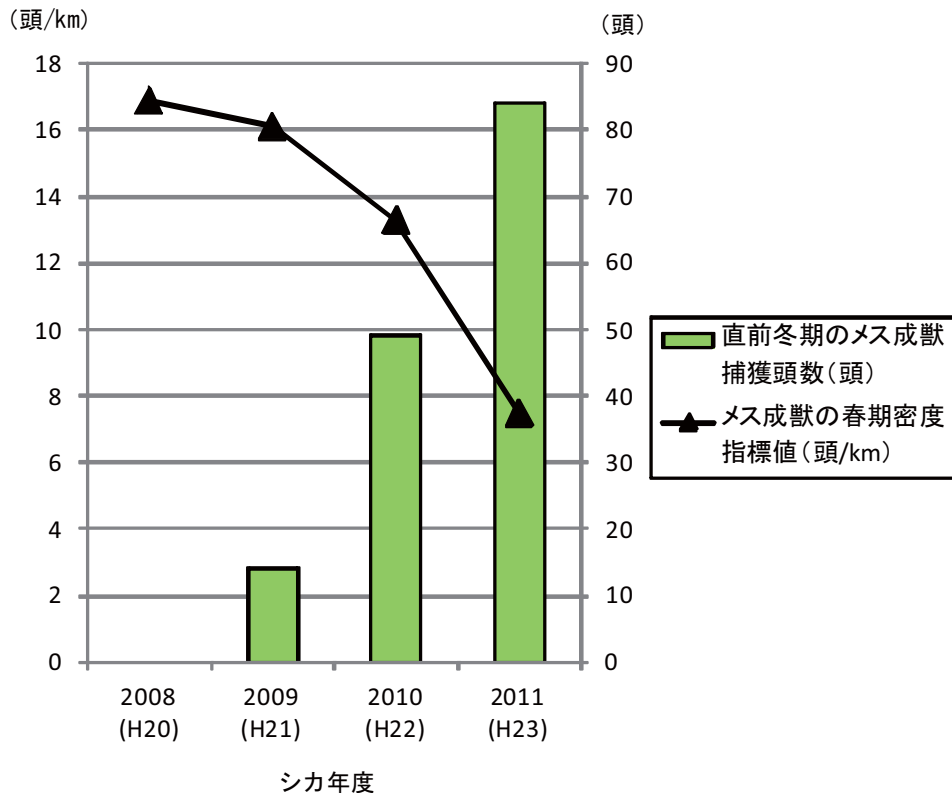


図 2-2-1. ルサー相泊地区で実施された春期エゾシカライトセンサスにおけるメス成獣の密度指標値の経年変化およびシカ年度別メス成獣捕獲頭数

同地区では平成 21（2009）シカ年度からエゾシカの試験的捕獲（捕獲手法検討調査）が開始されている。捕獲開始直前の平成 20（2008）シカ年度以降 4 年間の、春期ライトセンサスによるメス成獣の密度指標値の経年変化は、図 2-2-1～2 のとおりである。

注）平成 21（2009）シカ年度春期 = 2010 年 4 月末

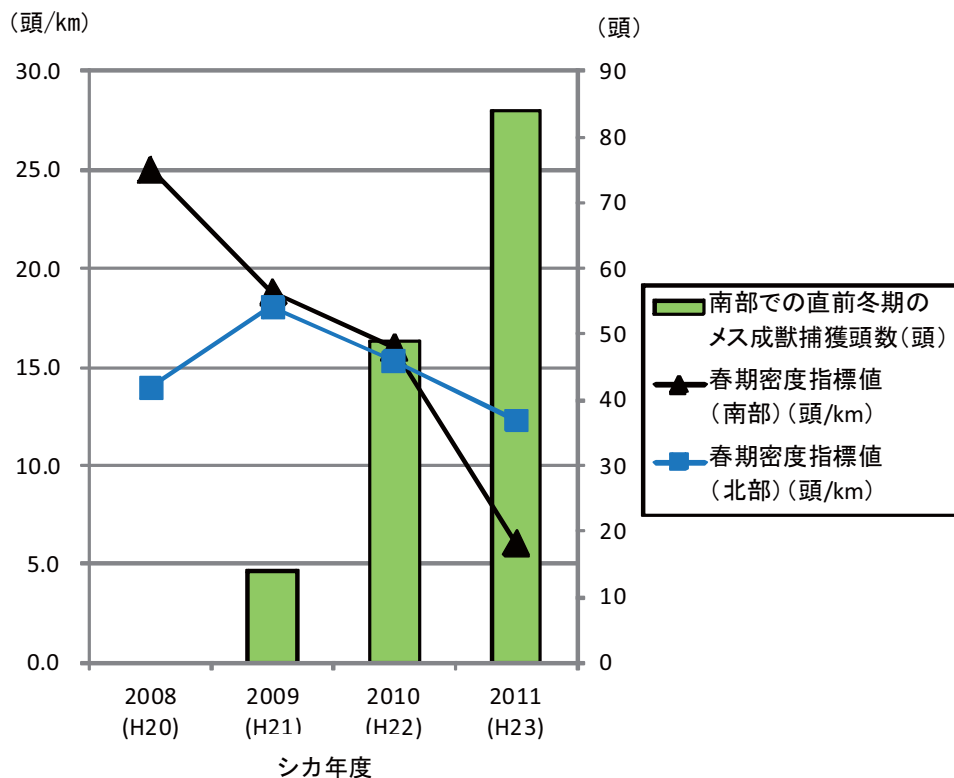


図 2-2-2. ルサー相泊地区で実施された春期エゾシカライトセンサスにおけるメス成獣の密度指標値の経年変化（南部 VS 北部）およびシカ年度別メス成獣捕獲数（南部）（試験的捕獲は南部のルサ～昆布浜でのみ実施されている）

1-3. メス成獣の推定生息数

2009 年 3 月に季節移動調査のための電波発信機を装着した標識個体（メス成獣のみ、調査開始時 22 頭）が、同地区のシカ集団中に均等に分散していると仮定し、ライトセンサス時の標識個体の発見割合から標識再捕獲法に基づく推定をおこなったところ、同地区のメス成獣の推定生息数（春期）は、2009～2011 年が約 360 頭、2012 年が約 200 頭と算出された。ただし、春期のライトセンサス結果は直近の捕獲による攪乱の影響を受けている可能性があり、捕獲による個体数削減効果の評価のためには、秋期のライトセンサス結果も待つ必要がある。

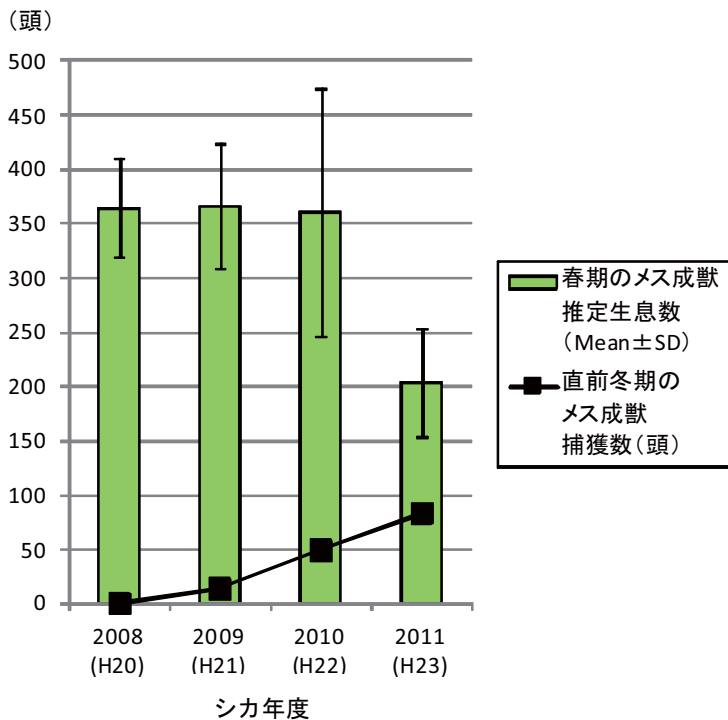


図 2-2-3. 春期のルサー相泊地区におけるメス成獣推定生息数の経年変化およびシカ年度別メス成獣捕獲数

2. 密度操作実験の概要（ルサー相泊地区）

ルサー相泊地区におけるエゾシカ密度操作実験は3カ年計画とする。

初年度はこれまで同地区で実施してきた捕獲手法試験の結果等を踏まえ、次項3に記したような、現実的に調整可能と思われる上限のエリアと努力量による捕獲を実施し、個体群や植生の動向を注意深くモニタリングする。

2年目は初年度の効果検証を行った上で、調整困難なエリアにおける巻き狩りの実施も目指す。その他の捕獲手法についても技術面で修正可能な点は修正を行い、準備可能な資金と人材を最大限投入した全力の捕獲を実施する。

最終年は2年目と同様のエリアと努力量による捕獲を実施し、実験の総括を行うとともに、中長期的な目標達成が可能かどうかを多角的に検討し、事業化(捕獲継続)の可否について最終的な判断を行う。

3. 平成 24 シカ年度 捕獲事業内容（ルサー相泊地区）

平成 23 シカ年度の複数手法による捕獲の試行結果（資料 1-3 参照）に基づき、密度操作実験初年度となる平成 24 シカ年度のルサー相泊地区では、以下の手法と適用時期によるエゾシカ密度操作実験を提案する。

ルサ川下流左岸の大型囲いワナは、構造をさらに改良・縮小し、除雪等ワナ自体のメンテナンスに要する労力を削減した上で、餌付け誘引作業を徹底的に行い、設置後 3 冬目ではあるが従来実績の 100 頭程度またはそれ以上の捕獲を目指す。

小型囲いワナは、日常メンテナンスや捕獲個体の搬出に要する労力、部外者の接近による攪乱（エゾシカの捕獲前逃走やワナ内部での激突・負傷の原因）回避等の諸条件を考慮すると、ルサー相泊地区内にはルサ川左岸以外に設置適地が無いため、平成 24 シカ年度は設置しない。

ルサ川以北では、流し猟式 SS による道路沿いでの捕獲を基本とし、少ない攪乱で十分に個体数を減らした後、シーズン最後に攪乱の大きい巻き狩りを実施し、流し猟式 SS では捕りきれなかった群れの捕獲を目指す。

3-1. 囲いワナによる捕獲（ルサ既存大型ワナの再改良）

- 期間： 11 月ワナ改修作業（規模縮小）。12 月馴致・餌付け誘引開始。12 月下旬～4 月末まで約 1 カ月に 1～3 回程度の捕獲ペースを想定。
- 実施候補地： ルサ川下流左岸（既存ワナ）
- 検討事項： より広範囲からの餌付け誘引、ワナ構造改良、遠隔操作電動ゲートと自動落下式ゲートの組み合わせ。
- 捕獲目標頭数： 約 100 頭
- 捕獲物処理： 生体で譲渡し、有効活用。

3-2. 流し猟式 SS

- 期間： 11 月下旬餌付け開始。12 月下旬～3 月中旬に週 1 回程度の捕獲を実施。
- 実施候補地： 道道知床公園羅臼線沿い（ルサ～昆布浜。可能ならばルサ～相泊）。
- 検討事項： 巻き狩りを流し猟式 SS 期間の終了後に実施することで、H23 年度のような捕獲効率低下時期の発生を回避可能か？
少雪年には海岸段丘斜面付近により多数のエゾシカが留まるか？
通行止め実施区間を H23 年度より延長可能か？
より広範囲からの餌付け誘引が可能か？
- 捕獲目標頭数： 約 100 頭
- 捕獲物処理： 死体で譲渡し、有効活用。

3-3. 巻き狩り

- 期間： 12月までにハンター動員交渉。1月に下見と詳細作戦策定。3月末に1～2回捕獲実施(1箇所1回のみ)。H23年度試行結果を受けてハンターは20名体制に縮小。
- 実施候補地： ①北浜～昆布浜南部の間(H23年度試行地)。さらに可能ならば②セセキ温泉～相泊温泉の間を想定。③相泊～カモイウンベ川は厳しいか(希少鳥類)。
- 検討事項： 候補地②での勢子のルートや待ちの配置等。
3月の巻き狩り実施の可否(希少鳥類)。
- 捕獲目標頭数： ①約50頭、②約50頭
- 捕獲物処理： 死体で譲渡し、有効活用。有効活用施設の処理能力を超える捕獲があった場合は、一部廃棄物として有償処分。

※捕獲目標頭数合計： 250～300頭

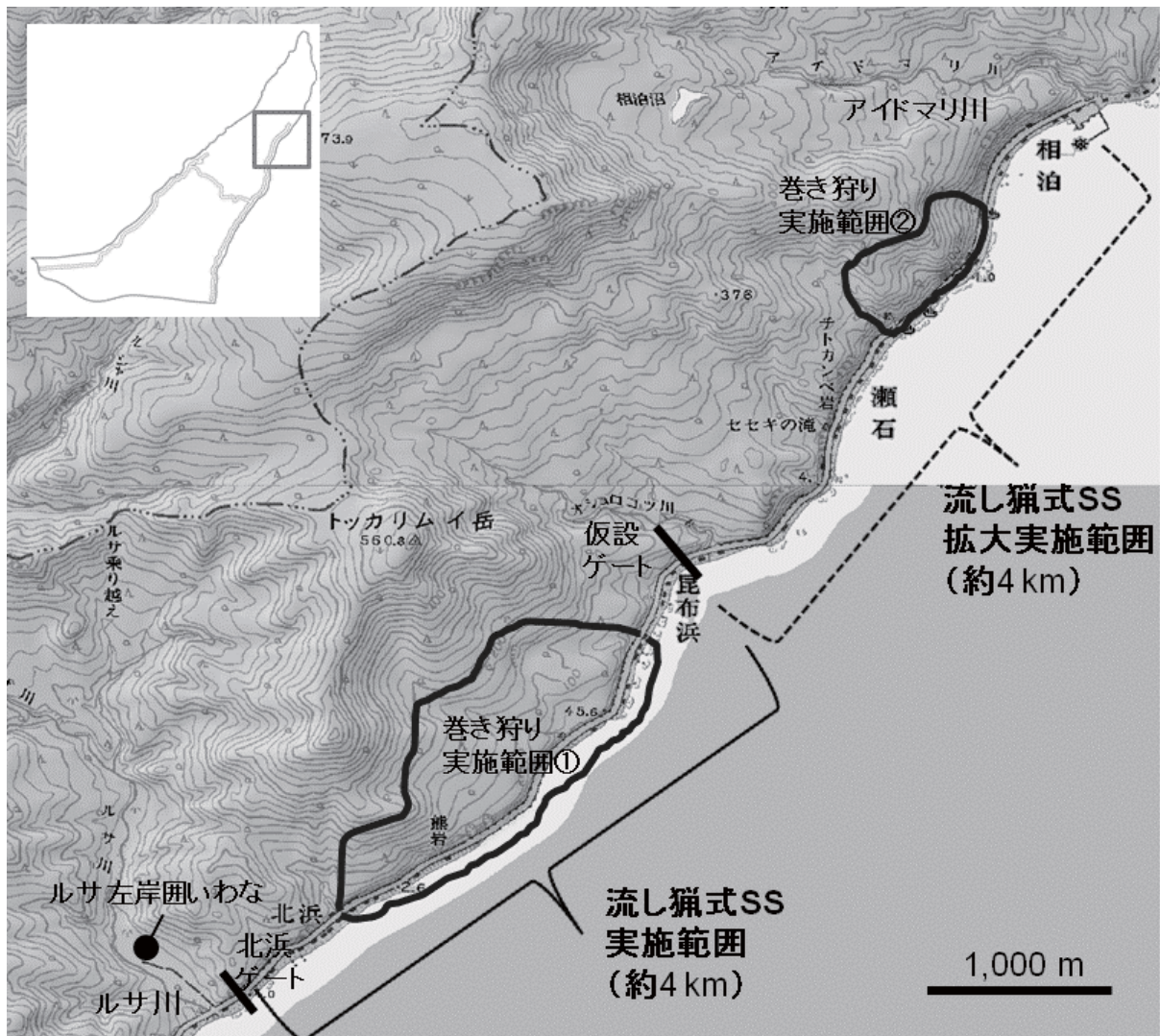


図 2-2-4. 平成 24 シカ年度のルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲予定地

表 2-2-1. 平成 24 シカ年度のルサー相泊地区におけるエゾシカ密度操作事業（案）

手法	8～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
			*シカ季節移動 スポットライトセンサス (秋期集中)	ルサ FH 冬期閉館		積雪十分に	シカ 道路法面に集中 猛禽繁殖期	スポットライトセンサス (春期集中)	*シカ季節移動	
実施手法案	1. 大型囲いワナ (ルサ川左岸 既設)	改修設計、 自動落下式ゲ ートの追加設置 検討		ワナ改修	馴致・餌付け期間 餌付け + 捕獲	餌付け + 捕獲	餌付け + 捕獲	餌付け+捕獲	餌付け+捕獲	
	* 捕獲はシカを十分に誘引した上でなるべく少数回(計 10 回程度)実施。 ただし、餌を独占してメス成獣を追い払うオス成獣は早めに捕獲。									
	2. 流し猟式SS (ルサー-昆布浜: 昨年同様) (昆布浜-相泊: 実施区間 拡大)		路上発砲の関係機関交渉 射撃訓練など	餌付け	餌付け+捕獲(道道知床公園羅臼線) 週 1 回程度捕獲					
	3. 巻き狩り (北浜-昆布浜: 昨年同様) (セセキ温泉-相泊温泉: 実施区間拡大)			ハンター動員交渉など	現地下見、 作戦詳細検討	捕獲 (1 箇所 1 回)				